

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

北西海岸先住民アートの歴史と現在

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齋藤, 玲子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00006008

北西海岸先住民アートの歴史と現在

齋藤 玲子
国立民族学博物館

1 はじめに

本稿では、版画をふくむ現代のアートがどのような背景で生まれ、発展してきたかを示すため、北西海岸先住民の美術の歴史の変遷とその特徴について概観する。

北西海岸先住民の居住してきた地域は、アラスカ州南部からオレゴン州あたりまでの太平洋岸である。なかでもカナダのブリティッシュ・コロンビア州（以下BC州）が大きな部分を占めている。南北に長いこの地域には、独自の言語・慣習・異なるアイデンティティを持つ多くの民族集団が暮らしてきた。図は、北米先住民の概説書 *Handbook of North American Indians* をもとに作成したもので、19世紀初期から中期の状況として20以上の民族集団名を示している（Suttles 1990）。

2001年のカナダのセンサスによると、BC州の「ファースト・ネーションズ」の人口は約155,000人で、人口の多いオンタリオ州に次ぐ数字である。インディアン省のリストに挙がっている州内の部族会議 Tribal Councils の数は27もある。先住民問題・北方開発省



図1 19世紀初～中期の北西海岸地域の先住民集団

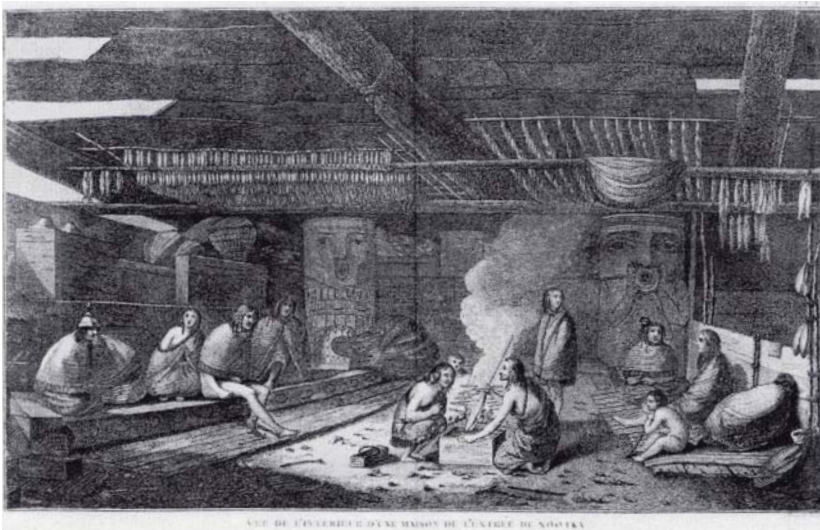


図2 ヌー・チャー・ヌルスの家屋内のスケッチで後に版画として出版されたもの
(北海道立北方民族博物館 2000)

(Aboriginal Affairs Northern Development Canada) によれば、カナダ国内には600を超えるファースト・ネーションズのコミュニティがあり、そのうちBC州には198の集団がいて、全体の約3分の1を占める(Statistics Canada 2013ほか)。それほどに、BC州は、多様な集団が存在しているのである。

北西海岸先住民のアートは、トーテム・ポールに代表されるように、力強い象徴的な表現が特徴といえる。動物などをデフォルメしたデザインは、木箱の側面などにすきまなく配されたりもする。一方で、織物や籠のように手の込んだ精緻な幾何学文様も生み出す。現代にも伝えられている物質文化と通じるこのような美術様式は、先史時代の出土遺物にも認められるが、北西海岸先住民のアートの概要が明らかになるのは、ヨーロッパ人との接触が頻繁になり始める18世紀後半からである。

18世紀にスペイン、フランス、イギリス、アメリカ、ロシアの探検家や交易商人らがこの地を訪れ、ラッコなどの毛皮に目をつけるようになった。彼らは、先住民の住まいの内外が絵(paint)や彫刻であふれていること、そしてそれらが非常に洗練されたものであることを、驚きとともに記録している。たとえば、1778年にキャプテン・クックと同行した画家が描いたバンクーバー島西海岸のヌー・チャー・ヌルスの家の内部には、人面のある柱が見てとれる。これは、トーテム・ポール(ハウス・ポスト:家柱)の初めての記録とも言われている。

芸術には舞踊や口承文芸などもあるが、ここでは狭義のアート、すなわち造形芸術(美術)を中心にみていきたい。

2 民族誌の時代の美術とその背景

北米の北西海岸を18世紀に訪れた人びとが驚嘆したように、この地域では儀礼具はもちろん、生業の道具から日用品に至るまで、多くのものに文様が描かれ、あるいは彫刻が施されている。こうした物質文化を理解するには、まず社会構造や世界観を知ることが必要だろう。

この地域では、豊富な水産資源とその保存により、余剰生産物を蓄積することができた。そのため、北西海岸先住民は狩猟採集経済でありながら、貴族・平民・奴隷などの階層があり、上流の裕福な者が所有する家屋に数家族が同居していた。社会の基本的な単位は、同一の家屋に住む構成員からなる「家」と、それが集まった「村」であった。さらに、人びとは出自に基づく「半族」や「氏族」という集団にも属しており、それらの集団は漁労や採集活動などをおこなう土地やその利用権を有し、特定の名前や紋章を占有する権利を持っていた。各村の中で、最も富と名声を持つ家長が村の長となることが多かった。大きな家には50～60人もの人が住み、家屋にはその家の紋章が描かれた。

氏族や家などの呼称や紋章として使われたのは、祖先と特別な関わりがあると信じられている特定の動植物や自然現象、つまりトーテムであった。彼らの世界観では、すべての動物たちは種に応じたさまざまな超自然の力を持っており、時に人間の形態をとることもできると考えられていた。トーテムの代表的なものは、ワタリガラス、ワシ、オオカミ、シャチ、クマなどの実在の動物で、これらは集団や個人のアイデンティティを示すものとして、さまざまなものに描かれた。そして、一族の由来を伝える物語などを示すものでもあった。

万物に靈魂があり、肉体が死んでも靈魂は再生すると信じる人びとは、食用に供される「動物（植物）の人たち」の善意によって人間は生かされていると考えていた。漁労・狩猟・採集などにまつわるタブーや慣習の多くは、動物をはじめとする靈魂と良好な関係を保つための方法であり、精霊と交信する能力をもつシャマンが、生業の成否、病気の治療、天候の制御などをつかさどると考えた。シャマンの衣装やラトル（がらがら）などの儀式的道具には、その力を強める補助霊などが描かれることが多かった。

およそ11月を過ぎて初冬を迎える頃、生業活動は休止期となり、蓄えた食料とともに冬の村での生活が始まる。冬は、儀式がおこなわれる季節であった。クワクワクウなどの集団に代表される中部地域では、特に神話の劇化が発達しており、秘密結社に加入する人びとによって仮面劇が演じられた。仮面や衣装をはじめとする小道具が用意され、入念な稽古がおこなわれた。人びとの目には、演者が精霊に憑依され、奇跡をおこなっているように見えたという。こうした儀式は、参加する人びとに超自然的な力の存在を確信させ、また、人びとの結びつきをも強めるものであった。また、冬にはポトラッチと呼ばれる儀礼が開催されることも多く、その主催者となるのは、十分な食物と贈

表 北西海岸先住民のアートの歴史

先史時代	紀元前3500～1500年	BC州南部フレーザー川流域から、石器・骨角器の道具類、装身具、編物・かご類が出土
	900～1000年頃	フレーザー川流域から食器や人物・動物像の石彫、宗教・儀礼的道具出土
	1500年頃	ワシントン州オゼット遺跡から木造住居、木彫、木箱、かごなど歴史時代に記録されたものと類似する多くの生活用具が出土
歴史時代	1780年頃	探検家、毛皮交易商人たちとの接触が始まる
	1820年頃	みやげとして、石製のパイプ、ミニチュアの彫刻、精緻なかごなどを製作
	1860年頃	天然痘などの流行により人口激減
		トーテム・ボールの隆盛
	1871年	BC州がカナダ連邦に加盟
	1876年	インディアン法の制定
		キリスト教布教、宣教師らによる学校教育で伝統的慣習・言語の喪失
	1885年	インディアン法の改定で伝統的儀式の禁止
	1896年	クロンダイクのゴールドラッシュ移住者増により、サケ漁業・缶詰産業、林業等の展開
		先住民の伝統的な文化が衰退
現代	1949年	ブリティッシュ・コロンビア大学人類学博物館で先住民彫刻家を雇い、古いトーテム・ボール等修復
	1951年	インディアン法の大幅改定（市民権の付与、伝統的儀式禁止等の撤廃）
	1953年	ブリティッシュ・コロンビア州立博物館（当時）で伝統的儀式の復活
		インディアン・ルネッサンス ―文化の復興運動―
		木彫、金・銀細工のジュエリー製作などが盛んになる
	1967年	モントリオール万博で先住民アーティストの作品を多数展示
	1960年代末	シルクスクリーン版画製作の開始
	1970年頃	キタンマクス北西海岸インディアン美術学校創設（ハイゼルトン、クサン）
	1973年	ニスガー判決で先住権の存在が認められる →以降、民族自治を求める運動活発化
	1980年	国立博物館等からの現地への資料返還により、ウミスタ文化センター開館
	1989年	カナダ文明博物館開館、メイン展示として北西海岸先住民の住居ジオラマ展示
	1990年代	アート作品の素材がガラスやテキスタイルなど多様化
		パブリック・アート
		先住民アーティスト作品の公的な空間・イベントのシンボル等への採用

り物を用意できる首長層であった。多くの客を招き、莫大な富を誇示して気前よく分けることで、出席者に感動を与え、それが名声を高めることにつながった。首長の衣装や持ち物は、神話やしきたりをよく知り、紋章などを描く技術の高い者に作らせていたため、洗練され手の込んだ逸品が残されている。

3 美術の様式と南北の地域差

北西海岸地域は南北に長く、言語の系統が異なる多くの民族集団が居住してきたが、

19世紀頃の美術は、様式や概念の違いから、大きく北部・中部・南部の3地域に分類されている。様式や技法については、ビル・ホルム (Bill Holm) の研究が基本とされてきた (Holm 1965)。ホルムの研究は、調査のベースとなった北部地域の様式が北西海岸地域の中で最も発達したものとの認識があるとして、論議されてはいるものの、基本的な分析の視点は今なお有用だろう (Berlo & Philips 1998)。以下にその分析をあげていく。

北部地域の先住民は、トリングット、ハイダ、ツィムシアン (ニスガーやギトクサンを含む) などである。洗練されたフォームライン (型枠線) によるデザインが創出された地域であり、他の技法はほとんど使われない。モチーフは社会的・宗教的なものと強く結びついており、氏族の紋章が多用され、シャマニズムの要素が色濃く表されている。

中部地域には、ヌハーク (ベラクーラ)、ヘイルツク (ベラベラ)、オウェキーノ、クワクワカワク (クワキウトル)、そしてヌー・チャー・ヌルス (ヌートカ) などの集団がいる。特権の所有や相続を誇示する人びとで、儀礼では擬人化された仮面や彫像などが多用される特徴がある。

南部地域は、現在のバンクーバー周辺より南にあたり、カナダのコースト・セイリッシュから、合衆国のワシントン州やオレゴン州までの広範な地域にわたる文化的・言語的に多様な人びとが含まれる。南部地域は、白人の移住が早く接触も長いために、伝統的な儀礼や芸術の崩壊も早かった。先の2地域に比べ、美術には社会的・儀礼的意味を持つものは少なかったが、技術的には木彫はもちろん、かご編みや織物が特に発達していた。

それぞれの地域の境界は明確なものではなく、互いに影響を受けあっていた。ホルムはまた、古い資料の研究をとおして、動物や人物の表現には3つの基本的アプローチがあるとした。すなわち、「構成的」：生き物は比較的まっすぐでくっきりとした輪郭が示される。「発展的・拡張的」：ある身体部分が省略されたり再配置される。そして「配分的」：手足が本来の位置とは別のところに配置換えされるとともに、すべての空間が構図的に埋め尽くされる。モチーフの同定が難しいほどの表現も見られる。

また、3つの主な構成単位すなわち、楕円を押しつぶしたような「卵形」、「U字型」、「型枠線」の組み合わせによりデザインされる、という。

ただし、上述のようにこれらは北部に強く見られる特徴であり、通婚などによって19世紀から次第に中部や南部地域にもひろまってきたと考えられている。

4 伝統的な美術の商品化

伝統的な文化は、欧米の人類学者らによって記録されてきたわけだが、それは長く続いてきた文化が大きく変容してゆく時代に書きとめられたものだった。

1825年にはイギリスとロシアが交渉を行い、北緯54度40分以上をロシア、以南をイギ

リスと国境を定めた。上質な毛皮を獲りつくし、1867年にロシアはアラスカをアメリカに売却、同年、カナダもイギリスの自治領となった。その直後にアラスカ州とユーコン準州との境のクロンダイクを中心にゴールドラッシュが起き、鉱山開発が進められ、移住者が増加した。サケ缶詰の工場が各地に建設され、水産業が盛んになるとともに、林業・製材業も拡大していった。

移住者が増えるにつれ、先住民は狩猟・漁撈・採集を基盤とする暮らしが困難になっていった。はしかや天然痘といった伝染病により、人口も減少した。また、キリスト教の布教と学校教育により、20世紀前半には多くの伝統的な文化要素が失われていった。そのようななか、外部の人間との接触が頻繁になると、その求めに応じた新しい工芸品が生み出されるようになった。

たとえば、ハイダが暮らすクイーン・シャーロット島ではアージライト（珪質粘土岩）という黒光りする加工しやすい石が産出した。この石を彫刻してつくる儀式用のパイプは、1820年ころには骨董品としてヨーロッパ人に収集されるようになった。それが売れることを知ったハイダの彫刻家らは、19世紀半ばにはさまざまなアージライト製品を開発するようになった。大小の皿や燭台などには、トーテムの動物や神話のモチーフとともに、白人とその船を描いたものや、花柄やコンパスを使って製図したような模様など、ヨーロッパ製品を模倣したデザインも取り入れられるようになった。また、トーテム・ポールや木箱のミニチュアなども、みやげとして作られた。

北西海岸の中でも、ハイダの人口減は激しいものであったが、これらのミニチュアなどには、後の文化復興に役立つ伝統的な物語や美術様式が残されていた。なかでも19世紀に活動した彫刻家チャールズ・エデンショウ（Charles Edenshaw）には優れた作品が多く、後に彼の甥の孫にあたるビル・リード（Bill Ried）や曾孫のロバート・デヴィッドソン（Robert Davidson）は、20世紀後半にアーティストとして活躍することとなった。

5 権利回復運動と文化復興

20世紀前半までに、先住民の住む村々からは儀礼具をはじめとする物が収集され、都市部の博物館に資料として保管された。なかには、アラート・ベイのように、法で禁じられていたボトラッチを行なったため、儀礼具を没収されてしまうという例もあった。この資料は、後の1970年代に国立の博物館等から現地に返還された。19世紀から20世紀前半にかけて収集された資料を保管する博物館は、伝統的な文化の宝庫であった。

第二次世界大戦後それほど経たない1949年、ブリティッシュ・コロンビア大学人類学博物館では、クワクワカワクウの彫刻家エレン・ニールとマンゴ・マーティンらを雇い、古いトーテム・ポールの修復を依頼した。その後、州都ビクトリアの州立博物館でもマ

ング・マーティンとその親族であるヘンリー・ハントらによる資料の修復や複製が行われた。博物館は若手彫刻家の育成の場ともなり、以来、ハント一家（Hunt Family）はアーティストとして著名になった。

また、カナダを代表するアーティストのひとりで、ハイダの母を持つビル・リード（Bill Reid 1920–1998）は、1950年代初めに、母方の祖父のもとで金・銀細工を始めた。彼は、1958年から62年にかけて、UBC 人類学博物館の野外展示でハイダの住居とトーテム・ポールの復元に携わり、彫刻家として大型の作品を手がけるようになった。ビル・リードの代表的な作品は、その後、同UBC 人類学博物館やバンクーバー国際空港などに展示されている。国立民族学博物館（以下、みんぱく）には、彼の版画も収蔵されている。アイヌ民族の彫刻家・故砂澤ビッキ氏と交流があったこともよく知られるところである。

1960年代から70年代にかけて、北米でさまざまな社会運動が活発化する中で、先住民の権利を回復する動きも高まり、カナダでも次第に自立をうながす施策や法も整備されていくことになる。そして、先住民の文化の保存と復興には、公的な支援がおこなわれるようになっていった。1967年にはモンリオールで万国博覧会が開かれ、インディアン・パビリオンでは、先住民のアーティストによる作品が多数展示された。

1960年代にビクトリアで制作が始まったシルクスクリーンは、このような状況下で生まれたものである。版画という新しい技法により、比較的安価で大量に伝統的なモチーフが生産されるようになったことで、北西海岸先住民の美術の普及に役立ったと考えられる。

1970年にはBC州北部のヘイゼルトン（クサン）にキタンマクス北西海岸インディアン美術学校が創設され、先述のビル・ホルムやクワクワカワクの彫刻家トニー・ハントらが指導にあたった。同校は、木彫の復興とともに版画やジュエリーなどを含むさまざまな種類の美術品を開発し、アーティストの養成に貢献した。かつて彫刻家になるためには、熟練者の見習いとして修行を積む必要があったが、近年は、美術学校や大学でデザインの基礎や民族文化について学ぶ人も増えており、女性の彫刻家などジェンダーを超えて活躍する人材も出てきている。

おもに1990年代以降、こうしたアーティストが、空港や公園などのモニュメントや壁面装飾といったパブリック・アートを手がける例も増えている。バンクーバー・オリンピックのメダルのデザインに、シャチやワタリガラスが採用されたことは記憶に新しい。北西海岸の美術はBC州、さらにはカナダを代表する文化として認識されてきているといえよう。美術の復興は、先住民の経済的な支えになるとともに、彼らの存在とその文化の魅力をアピールする媒体ともなった。こうした動きは、日本のアイヌ民族をふくめ、他の先住民にも影響を与えている。北西海岸先住民のアートがどのように展開するのか、世界が注目している。

※本稿は、みんぱくの平成21年度秋季特別展「自然のこえ 命のかたち カナダ先住民の生みだす美」の解説に所収した「北西海岸先住民アートの世界」を加筆修正したものである。

文 献

Berlo, Janet C. and Ruth B. Philips

1988 *Native North American Art*. Oxford: Oxford University Press.

Hall, Edwin S., Margaret B. Blackman and Vincent Rickard

1981 *Northwest Coast Indian Graphics: An Introduction to Silkscreen Printing*. Seattle: University of Washington Press.

北海道立北方民族博物館編

2000 『トーテムポールとサケの人びと ― 北西海岸インディアンの森と海の世界』（第15回特別展図録）網走：北海道立北方民族博物館。

Holm, Bill

1965 *Northwest Coast Indian Art: An Analysis of Form*. Seattle: University of Washington Press.

1990 Art. In Wayne Suttles (ed.). *Northwest Coast: Handbook of North American Indians vol.7*. pp.602–632. Washington: Smithsonian Institution.

Jonaitis, Aldona

2006 *Art of the Northwest Coast*. Seattle: University of Washington Press.

齋藤玲子

2008 「北西海岸インディアンのくらしと物質文化」北海道立北方民族博物館編『トーテムの物語 ― 北西海岸インディアンのくらしと美』（第23回特別展図録）pp.5–8, 網走：北海道立北方民族博物館。

2009 「北西海岸先住民アートの世界『象徴の森』のルネッサンス」国立民族学博物館編『自然のこえ 命のかたち ― カナダ先住民の生みだす美』pp.62–75, 大阪：国立民族学博物館。

Statistics Canada

2013 *Aboriginal Peoples in Canada: First Nations People, Métis and Inuit* (National Household Survey, 2011, Catalogue no. 99–011–X2011001). Ottawa: Statistics Canada.

Suttles, Wayne (ed.)

1999 *Northwest Coast: Handbook of North American Indians. Vol.7*. Washington: Smithsonian Institution.